

福岡市内寺社資料調査事業

福岡の寺社美術工芸を今に伝える。

古き良き伝統が

新たな感動を呼び覚ます。

彫刻と絵画が紡ぐ、歴史の精髓。

隠れた名品が美の深淵へ誘います。



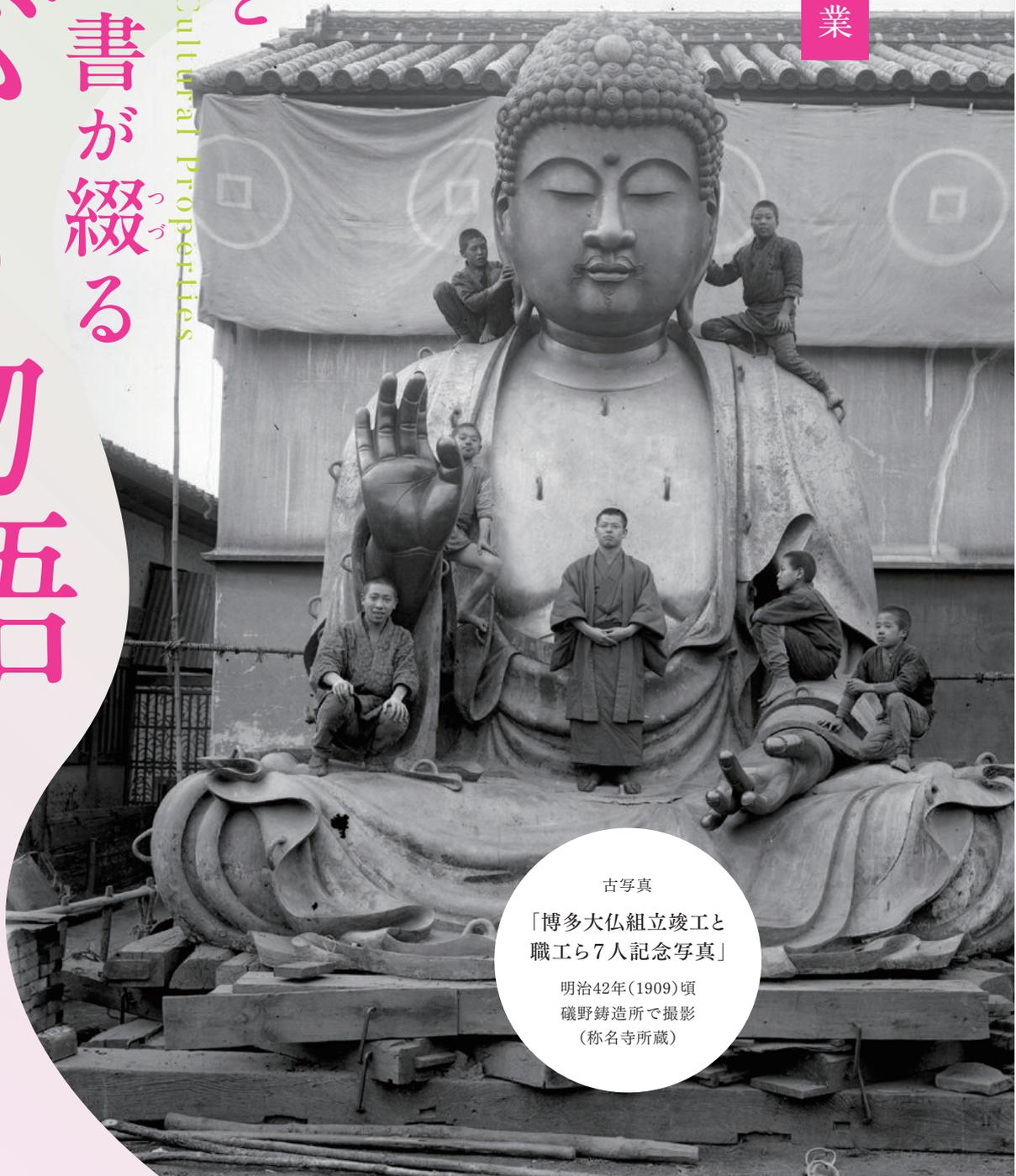
美術工芸品と

Fukuoka Cultural Properties

再発見 古文書が綴る

知られざる物語

Rediscovery



古写真

「博多大仏組立竣工と
職工ら7人記念写真」

明治42年(1909)頃
磯野鑄造所で撮影
(称名寺所蔵)



はじめに

福岡市は、古来より貿易都市として発展し、近代以降も急速な成長を遂げ、現在に至っています。文化財は、そうした発展・成長を支えてきた「もの」「ばしょ」「いとなみ」として、市内各所で大切に保存、継承されてきました。歴史深い地域として名高い福岡・博多の宝として、文化財は今後も守り、受け継いでいく必要があります。

一方、多くのまだ気づかれていない、知られていない文化財もあります。私たちの生活のなかで、寺院や神社は身近な存在です。お盆には先祖を供養し、新年には初詣するなど、古くから寺社は人びとの生活と密接につながってきました。しかし、寺社が所有する文化財の把握は十分とはいえない状況です。

近年、本市では平成24年度から文化庁の補助を受け、福岡・博多の寺社が所有する美術工芸品や古文書などを調査し、現在3期目の事業に着手しています。

調査により得られた成果は報告書にまとめ、主要な図書館などへ寄贈し、どなたでも閲覧することができず(第1期・第2期)。

歴史的・文化的な価値が著しいと判明した文化財については、指定文化財として指定し、その保護と活用につとめております。

文化財をもっと身近に感じていただきたいという想いから、これら調査の成果の一部を紹介する本パンフレットを作成しています。皆さまにとって新しい発見や気づきがあれば幸いです。

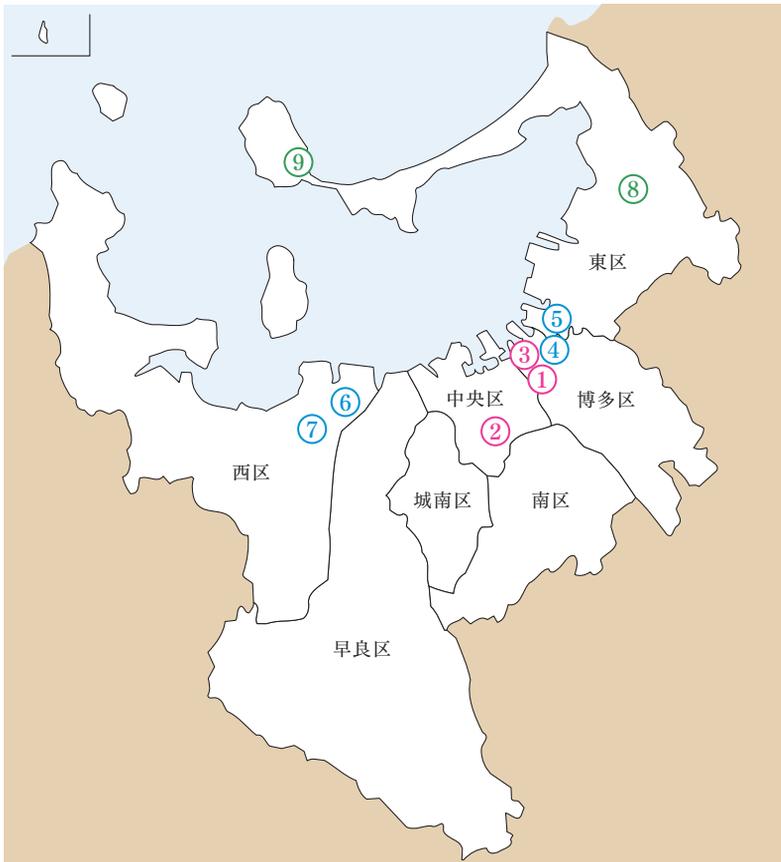
資料調査にご協力いただきました寺院関係者、神社関係者の皆様をはじめ、調査にあたりご指導・ご助言いただきました方々に御礼申し上げます。

通常、各寺院・各神社では、資料の一般公開は行っておりませんので、ご理解とご協力をお願いいたします。

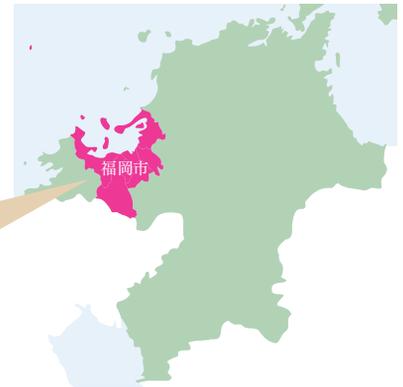
令和六年(二〇二四)三月

凡例

古写真以外の画像は福岡市撮影のものです。煩雑を避けるため、表紙・裏表紙を除き寺社における各資料の所蔵先の表記については省略しました。



調査対象寺社 位置図



調査対象寺社

第1期

- ① 浄土真宗 萬行寺 まんぎょうじ
- ② 浄土真宗 光専寺 こうせんじ
- ③ 浄土宗 善導寺 ぜんどうじ

第2期

- ④ 浄土真宗 松源寺 しょうげんじ
- ⑤ 時宗 称名寺 しょうみょうじ
- ⑥ 時宗 光福寺 こうふくじ
- ⑦ 時宗 寿宝寺 じゅほうじ

第3期

- ⑧ 香椎宮 かしいぐう
- ⑨ 志賀海神社 しかうみじんじや

1 浄土真宗 萬行寺

まんぎょうじ

〔所在地〕福岡市博多区祇園町四丁目五〇
〔創建〕七里隼人（出家して空性）が享
禄（二五二八～三二）頃に九州へ
下向し、博多に開いた道場を起
源とします。

国指定重要文化財

木造阿弥陀如来立像

年代 仁治三年（一二四二）

作者 仏師快成（かいせい、またはかいじょう）

像高 八二・五cm

鎌倉時代の阿弥陀如来像の典型として美術史上高く評価されています。



繊細な技法に
彩られた鎌倉仏

信長より京都を追放 された将軍義昭の 古文書

市指定文化財

萬行寺資料（足利義昭御内書）

年代 天正四年（一五七六）

足利義昭が萬行寺第五代とされる七里頼周へ宛てたもので、越前に侵攻してきた信長軍に対抗するよう指示しています。指定文化財の萬行寺資料は合計二六点（絵画一点、書跡四点、古文書二二点）あります。

＊御内書（ごないしょ）とは将軍の意思を伝える文書のこと。日付の下には、義昭の花押（かおう・サイン）があります。



狩野派の 最盛期の 本格的な水墨画



梅に鳩図（右隻）一五八・五×三五八cm

市指定文化財 紙本墨画 梅に鳩・東坡風水洞図 六曲屏風



東坡風水洞図（左隻）二五八・六×三五二cm

年代 安土桃山時代の終わり頃

作者 狩野重信

「梅に鳩図」は、太く力強い梅の幹と、幹から勢いよく伸びた枝に止まる五羽の鳩をダイナミックに表現しています。「東坡風水洞図」は、中国の詩人蘇軾（画面右）が友人の李節推（画面中央）に会いに行く場面を表しています。

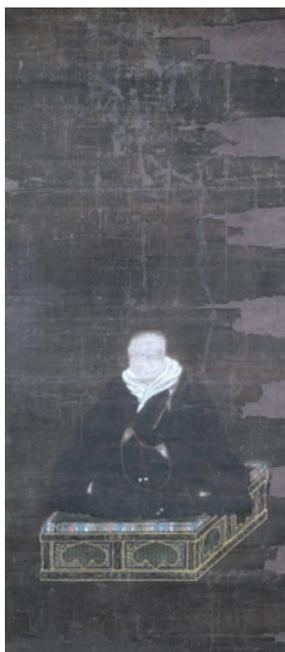
2 浄土真宗 光専寺

〔所在地〕福岡市中央区平尾三丁目二二―一五
 〔創建〕慶長十五年（一六二〇）

17世紀前期に遡る
 近世初期の貴重な真宗絵画

親鸞聖人像

浄土真宗の宗祖



年代 寛永15年(1638)
 7月9日
 法量 106.0×46.5cm

蓮如上人像

浄土真宗の中興



年代 寛永元年(1624)
 5月21日
 法量 90.5×39.2cm



3 浄土宗 善導寺

〔所在地〕福岡市博多区具服町六一―二四
 〔創建〕建暦年中（一一二一―一一二三）

中世日本の仏教に
 大きな影響を与えた
 善導大師



県指定文化財
 木造善導大師立像

年代 鎌倉時代後期カ
 総高 47.5cm

善導大師は中
 国浄土教の僧で、
 中世日本の法然・
 親鸞に多大な影響
 を与えました。



けんぼんちゃくしよくじゅうおうぞう

市指定文化財 絹本著色十王像

年代 南宋時代(1127-1279)の終わり頃カ
 作者 陸信忠
 法量 40.5×25.1cm

冥界の十王が
 死者を裁く

冥界の十人の王によつて、死者は生前の行いを裁かれ、次に生まれ変わる世界が決定するといわれます。十王像（十王図）は、死者が極楽浄土へ行くよう十王を供養するため、つくられます。



1 浄土真宗 松源寺

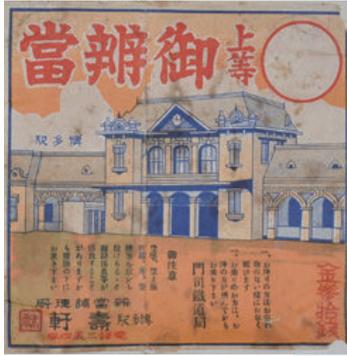
〔所在地〕福岡市博多区千代三―一六―三

〔創建〕寛文年間（一六六一―一七二）

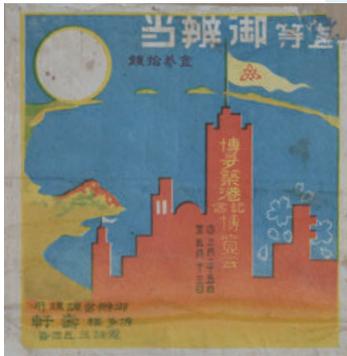
※一説に草創は元和年間（一六一五―一七二四）以前といわれます。

昭和レトロの 弁当掛紙

第十代住職・佐々木滋寛（一八九九―一九七六）は、昭和戦前期より、福岡の郷土文化、とりわけ民俗・演劇の研究者として活躍しました。松源寺には、そのコレクションが多数所蔵されます。



二代目博多駅が印刷される 昭和初期



博多築港記念博覧会 昭和十一年



東公園亀山上皇御尊像と大濠公園の景 昭和九年



福岡市博多区の大浜地区で宝暦五年（一七五五）の大風雨による被災や、翌年の疫病流行で亡くなった多くの人々の霊を施餓鬼供養*するため始まったもので、宝暦六年（一七五六）から今日まで受け継がれてきた歴史ある行事です。

東長寺一山の僧侶による読経や博多最後の絵師といわれる海老崎雪溪作の武者絵の展示のほか、趣向を凝らした夜店が並び賑やかな夏

大浜流灌頂とは？

祭りとなっています。

海老崎雪溪作の武者絵は、福岡県有形民俗文化財の指定を受けており、「大浜流灌頂」独特の風物詩として親しまれています。

大浜流灌頂は、毎年、八月二四日～二六日に行われます。

*死後、餓鬼道（がきどう）に落ちて餓鬼になった人や無縁仏など、飢えに苦しんでいる死者の霊魂に食べ物や飲み物などを施して供養する法会。



古写真「大浜流灌頂の様子」

撮影年代 昭和時代カ



大浜流灌頂の様子

撮影年代 令和5年(2023)(写真は福岡市所蔵)

2 時宗 称名寺

〔所在地〕福岡市東区馬出四一―一五〇
 〔創建〕元応二年（一二二〇）

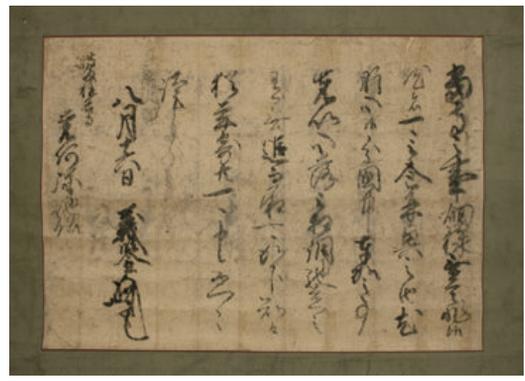


博多大仏とは？

称名寺第三十世河野智眼の発願により建造され、明治末期に完成しました。建立当初、称名寺は博多片土居（現在の博多座付近）に所在していました。が大正時代に道路拡幅のため寺院は移転することとなり、大仏も移転先の馬出に移されました。博多大仏は、昭和十九年（一九四四）に国家総動員法に基づき金属供出によって撤去され、現在は馬出の境内に台座が残っています。



境内に残る台座
 （写真は福岡市所蔵）



市指定文化財
 称名寺文書「武家之文章」

年代 大永八年（二五二八）八月十六日

江戸時代の地誌には、これら古文書が存在は知られていましたが、長らく所在不明となっていました。今回の調査事業で再発見され、市指定文化財になりました。市指定の八点のうち一点は、大永八年（二五二八）、火災により焼失した称名寺の再興のため、大友氏分国中の奉加（寄付）が認められたことがわかります。



市指定文化財
 絹本着色仏涅槃図

年代 十四〜十五世紀
 法量 一六三・八×一〇七・五cm

釈迦の入滅の様子を描いています。涅槃とは、煩惱の火が消え、智慧の完成した悟りの境地をいいます。確かな中世仏画の画技が認められ、上質な絵絹が使用されています。

「博多大仏 称名寺全景」
 年代 昭和時代カ、馬出移転後



絵葉書

3 時宗 光福寺

〔所在地〕福岡市西区姪の浜六一―一五―一
 〔創建〕南北朝後期

木造阿弥陀如来立像

年代 鎌倉時代（十四世紀前半）

総高 二二〇・六cm



4 時宗 寿宝寺

〔所在地〕福岡市西区石丸三一―一八―二三
 〔創建〕貞和元年（一三四五）

木造阿弥陀如来立像

年代 正徳六年（二七二六）

像高 一〇一・〇cm



第3期

令和5～8年度 2023～2026

1 香椎宮

令和六年創建一三〇〇年祭、令和七年勅祭を迎えます。

〔所在地〕福岡市東区香椎四丁目一五―一

〔創建〕神亀元年(七二四)



奉幣使参拝之図

年代 江戸後期

文化元年(一八〇四)秋月藩中老の吉村平蔵直繩が藩命により当日参列し、自らその実景を書写し、吉村家十一代吉村武之允が奉納したものといわれます。

香椎宮奉幣記

年代 江戸後期カ



資料を
写真撮影

奉幣使 (勅使)とは？

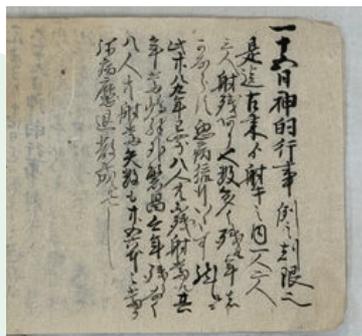
九州で二社しかない勅祭社の一つ

天皇の命令(勅命)を受けて、幣帛を神社などに奉獻した使いのことをいいます。宇佐宮と香椎宮の奉幣使については、中世動乱期の長い中絶を経て、江戸中後期に再興されました。江戸時代では六〇年に一度の二七四年・一八〇四年・一八六四年の三回で、大正十四年(一九二五)、十年に一度の参向に改められました。

2 志賀海神社

〔所在地〕福岡市東区志賀島八七七

〔創建〕不詳※「延喜式神名帳」(九二七)には社名記載



安政七年御社用日記 并妙薬伝法記

年代 安政七年(一八六〇)

代々宮司を務める阿曇家に残る日記には、歩射祭について「今年に残なく八人共射当(中略)弥病魔退散成ルヘシ」とあり、病魔退散の願いが込められていることがうかがえます。

的を射抜いて病魔退散！

県指定無形民俗文化財 志賀海神社歩射祭

撮影年代 令和三年(二〇二二)

阿曇百足の土蜘蛛退治伝承にちなむもので、破魔の目的と年占の意味を兼ねた神事です。近年では正月十五日に近い日曜日に歩射祭が行われています。



古式を今なお伝える 伝統神事

(写真は福岡市所蔵)



土蔵から出てきた資料をやさしくクリーニング

おわりに

本パンフレットで紹介した資料は調査成果のごく一部です。第1・2期の調査成果は、福岡市文化財叢書として報告書を刊行しています。全国の主要な図書館などに寄贈し、どなたでも読むことができます。図版を眺めるだけでも楽しいですよ。ぜひ、お手にとってみてください。

第3期の調査事業は、令和7年度に香椎宮、令和8年度に志賀海神社の報告書刊行を予定しています。



通常、各寺社では、資料の一般公開は行っておりません。第1・2期の資料に関するお問い合わせは裏表紙をご参照ください。第3期の資料については、調査・整理中ですので、お問い合わせはお受けできません。



古写真「博多の劇場『雄鷹座(ゆたかざ)』開場式」
明治34年(1901)6月(称名寺所蔵)



官幣大社香椎宮境内及付近之図
明治39年(1906)(香椎宮所蔵)



古写真「博多大仏ひな形竣工記念写真」
明治32年(1899)、磯野鑄造所で撮影(称名寺所蔵)



志賀大明神社人帳
正徳3年(1713)3月(志賀海神社所蔵)



(上)
御夢想目薬
(五銭瓶)
(下)
御夢想目薬
(三銭瓶)
(称名寺所蔵)



弁当掛紙
昭和時代(松源寺所蔵)

歴代の
かしわめし弁当の
掛紙

発行日 令和6年 3月

発行元 福岡市経済観光文化局文化財活用部
文化財活用課

お問い合わせ 〒810-8620 福岡市中央区天神1丁目8-1
(福岡市役所14階)
[TEL]092-711-4862 [FAX]092-733-5537
[E-mail]bunkazai.EPB@city.fukuoka.lg.jp

福岡・博多の歴史をもっと知りたい方



福岡市の文化財 🔍 検索



上記の二次元バーコードを
読み取ってアクセスください

※本事業は文化庁補助事業 令和5年度「地域活性化のための特色ある文化財(美術工芸品)調査・活用事業費」を受けて実施しています。